


概要版

平成31年4月

杉並区幼保小接続期カリキュラム・連携プログラム

ぐんぐん伸びる すぎなみの子

～かかわる つながる ふかまる育ちと学び～

 杉並区教育委員会



ぐんぐん伸びる すぎなみの子

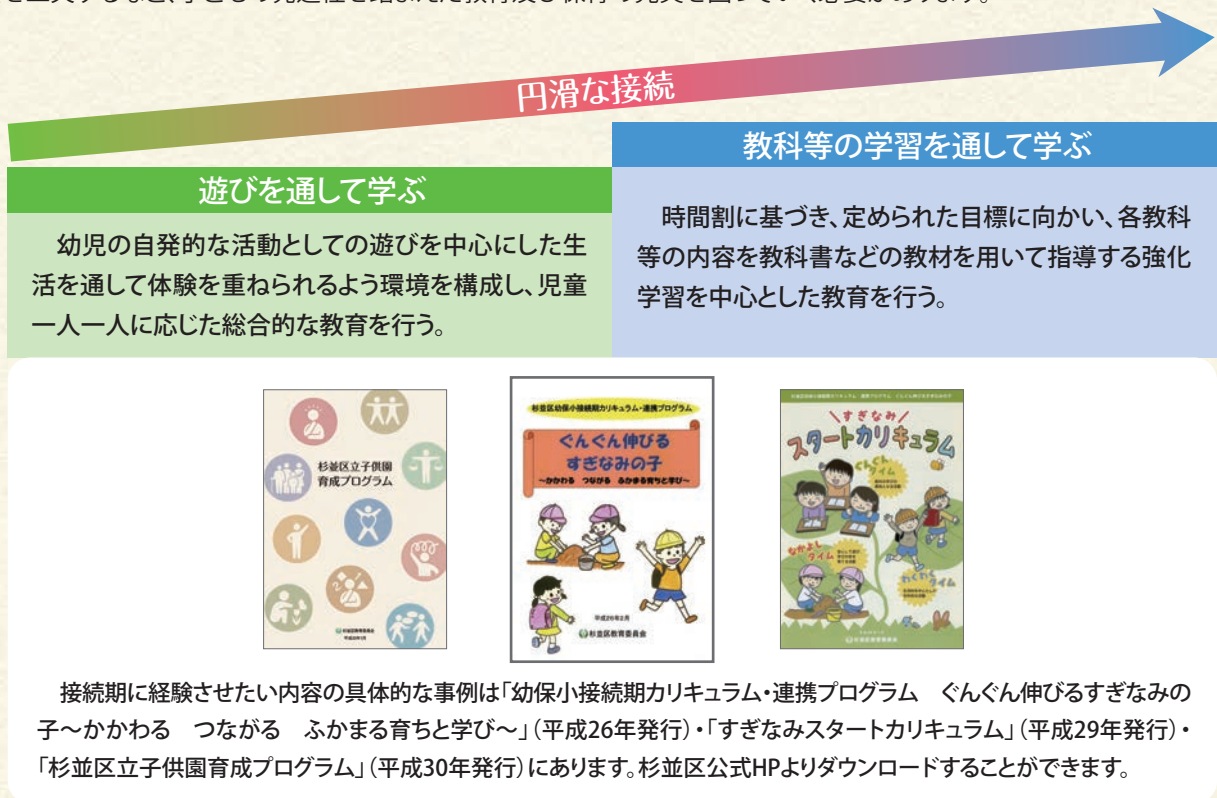
～かかわる つながる ふかまる育ちと学び～

杉並区教育委員会では、「杉並区教育ビジョン2012」に基づき、一人一人の発達や学びを切れ目のないようにつなげ、学びの成果を確実に受け止め、次の段階で一層発展できるように、平成26年に「杉並区幼保小接続期カリキュラム・連携プログラム ぐんぐん伸びるすぎなみの子」を発行し、就学前教育と小学校教育の円滑な接続を目指した教育及び保育を重点に進めています。

その後の幼稚園教育要領・保育所保育指針等の改訂を受けて、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を踏まえた連携を工夫することにより、さらに円滑な接続が図られるよう本リーフレットを作成しました。

幼保小接続期カリキュラム

子どもの発達や学びは連続しているものです。就学前教育施設では幼児期にふさわしい教育・保育を行うことが小学校以降の生活や学習の基盤の育成につながることに配慮する必要があり、小学校では幼児期における遊びを通じた総合的な学びを、各教科等における学習へと円滑に移行できるよう工夫することが大切です。互いの教育内容や指導方法の違いや共通点について理解を深め、それぞれが指導方法を工夫するなど、子どもの発達性を踏まえた教育及び保育の充実を図っていく必要があります。



5歳児10月～1年生7月
接続期

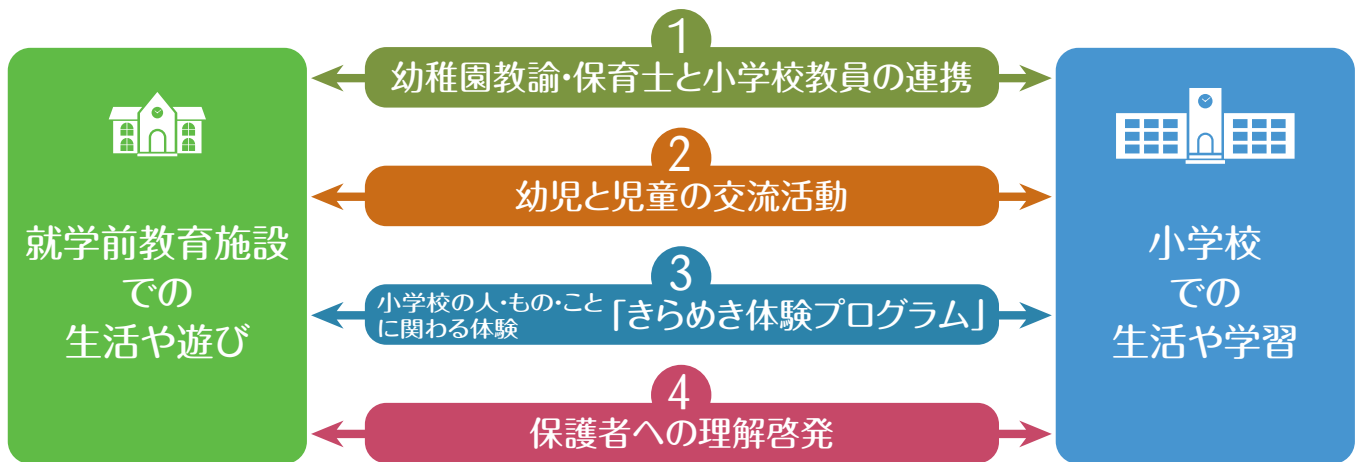


幼保小連携プログラム

杉並区では全小学校が幼保小連携を推進しています。

就学前教育施設から小学校へと変わる環境に対し、幼児が自分の力で適応し、滑らかに移行することを目指して「幼保小連携の4方策」に取り組んでいます。幼稚園教諭・保育士と小学校教員との意見交換や合同研修、交流活動等の取組を通して相互理解を深め、連携を図っています。

幼保小連携の4方策



幼保小連携の4方策の充実のために

1 幼保小連携の推進体制を組織する

- 幼保小連携の必要性について全職員の共通理解を図る。
- 連絡調整の機能を発揮しながら、組織的・計画的に進める窓口となる担当者を園務・校務分掌に位置付ける。
- 単発的なイベントではなく、継続的・発展的な実施となるように、教育課程等へ位置付け、年間計画を立案する。
- 園・学校便りなどにより、幼保小連携の取組について家庭・地域に情報発信して理解啓発を図る。

2 共に爽りのある交流活動を実施する

- 幼児と児童の双方にとって意義のある活動となるよう、ねらいを明確にした計画を立案する。
- 交流活動が幼児・児童理解の場となるよう工夫する。
- 幼児が就学への期待をもつ取組では、小学校との直接的な交流活動ばかりではなく、散歩の途中で学校に寄ったり、チャイムの音を聞いたりするなど、様々な方法で進める。

3 相互の教育内容や指導方法等を理解する

- 保育参観や授業参観等、実際の子どもの姿を見ることを通して話し合う。
- 合同研修会等の機会をもち、相互の教育内容や指導方法等の違いや共通点、よさについて話し合う。

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿

幼児期の教育は生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要なものです。就学前教育施設においては、育みたい資質・能力について、遊びを通じた総合的な指導の中で一体的に育むよう努めるものとしています。

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手掛かりに幼稚園教諭・保育士と小学校教員が子どもの成長を共有することを通して、幼児期から児童期への発達の流れを理解することが大切です。

幼児教育において育みたい資質・能力

- ①豊かな体験を通じて、感じたり、気付いたり、分かたり、できるようになったりする「知識及び技能の基礎」
- ②気付いたことや、できるようになったことなどを使い、考えたり、試したり、工夫したり、表現したりする「思考力、判断力、表現力等の基礎」
- ③心情、意欲、態度が育つ中で、よりよい生活を営もうとする「学びに向かう力、人間性等」

■幼児期の終わりまでに育ってほしい姿

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」は、幼稚園教育要領及び保育所保育指針のねらい及び内容に基づく活動全体を通して資質・能力が育まれている幼児の園修了時の具体的な姿であり、保育者が指導を行う際に考慮するものです。



健康な心と体

園生活の中で、充実感をもって自分のやりたいことに向かって心と体を十分に働かせ、見通しをもって行動し、自ら健康で安全な生活をつくり出すようになる。



自立心

身近な環境に主体的に関わり様々な活動を楽しむ中で、しなければならないことを自覚し、自分の力で行うために考えたり、工夫したりしながら、諦めずにやり遂げることで達成感を味わい、自信をもって行動するようになる。



協同性

友達と関わる中で、互いの思いや考えなどを共有し、共通の目的の実現に向けて、考えたり、工夫したり、協力したりし、充実感をもってやり遂げるようになる。



道徳性・規範意識の芽生え

友達と様々な体験を重ねる中で、してよいことや悪いことが分かり、自分の行動を振り返ったり、友達の気持ちに共感したりし、相手の立場に立って行動するようになる。また、きまりを守る必要性が分かり、自分の気持ちを調整し、友達と折り合いを付けながら、きまりをつくったり、守ったりするようになる。



社会生活との関わり

家族を大切にしようとする気持ちをもつとともに、地域の身近な人と触れ合う中で、人との様々な関わり方に気づき、相手の気持ちを考えて関わり、自分が役に立つ喜びを感じ、地域に親しみをもつようになる。また、園内外の様々な環境に関わる中で、遊びや生活に必要な情報を取り入れ、情報に基づき判断したり、情報を伝え合ったり、活用したりするなど、情報を役立てながら活動するようになるとともに、公共の施設を大切に利用するなどして、社会とのつながりなどを意識するようになる。



思考力の芽生え

身近な事象に積極的に関わる中で、物の性質や仕組みなどを感じ取ったり、気付いたりし、考えたり、予想したり、工夫したりするなど、多様な関わりを楽しむようになる。また、友達の様々な考えに触れる中で、自分と異なる考えがあることに気づき、自ら判断したり、考え直したりするなど、新しい考えを生み出す喜びを味わいながら、自分の考えをよりよいものにするようになる。



自然との関わり・生命尊重

自然に触れて感動する体験を通して、自然の変化などを感じ取り、好奇心や探究心をもって考え言葉などで表現しながら、身近な事象への関心が高まるとともに、自然への愛情や畏敬の念をもつようになる。また、身近な動植物に心を動かされる中で、生命の不思議さや尊さに気づき、身近な動植物への接し方を考え、命あるものとしていたわり、大切にすることを覚えるようになる。



数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚

遊びや生活の中で、数量や図形、標識や文字などに親しむ体験を重ねたり、標識や文字の役割に気付いたりし、自らの必要感に基づきこれらを活用し、興味や関心、感覚をもつようになる。



言葉による伝え合い

先生や友達と心を通わせる中で、絵本や物語などに親しみながら、豊かな言葉や表現を身に付け、経験したことや考えたことなどを言葉で伝えたり、相手の話を注意して聞いたりし、言葉による伝え合いを楽しむようになる。



豊かな感性と表現

心を動かす出来事などに触れ感性を働かせる中で、様々な素材の特徴や表現の仕方などに気づき、感じたことや考えたことを自分で表現したり、友達同士で表現する過程を楽しんだりし、表現する喜びを味わい、意欲をもつようになる。

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」は、幼児期にふさわしい遊びや生活を積み重ねることにより育まれ、特に、5歳児後半に見られるようになる姿です。5歳児だけでなく、3歳児、4歳児の時期から、幼児が発達していく方向を意識してそれぞれの時期にふさわしい指導を積み重ねていくことが大切です。「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が到達すべき目標ではないことや、個別に取り出されて指導されるものではないことに十分留意する必要があります。